

令和 3 年 6 月 14 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2020

課題番号：18K01975

研究課題名(和文) マイノリティの社会運動と政策イシュー形成過程の領域横断比較研究

研究課題名(英文) Cross-disciplinary comparative study of minority social movements and policy issue formation processes

研究代表者

岡部 耕典 (OKABE, Kosuke)

早稲田大学・文学大学院・教授

研究者番号：90460055

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：体制の違いを超えて新保守主義と新自由主義が結びついた政治が展開する日本を含む東アジア諸国において、支配的な政治が求める「よき市民」であれという規範に対抗するマイノリティの社会運動の実際と実践を多面的・領域横断的に研究し、今後これらの運動が発展的に展開していくためには、シングルイシュー・ポリティクスを克服し、ジェンダー、セクシュアリティ、ディスアビリティ、貧困、若者、労働などの領域とネーションを横断した連携と実践が求められていることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

新保守主義と新自由主義のもとでの「よき市民」性を強調する政治では、社会的に作りだされていたはずのマイノリティの差異を本質的なものとして表象し、より周辺化されたマイノリティの疎外と「よき市民」規範に適合する義務遂行能力を持つマイノリティを同化することによる政策形成運動の分断と弱体化が図られる。本研究は、シングルイシュー・ポリティクスを超えてマイノリティの社会運動が包括的な政策形成のために連携することにより、独自性と革新性を保持しつつ広範な権利と資源獲得が可能になることを示し、多様性が尊重される社会の構築に貢献する。

研究成果の概要(英文)：In East Asian countries, including Japan, where politics that combines neo-conservatism and neo-liberalism develops beyond differences in systems, the minority social movements are developed while negotiating with the norm of being a "good citizen" required by dominant politics.

Through multifaceted and cross-area research on the practice of minority social movements, this study clarified that it is necessary to overcome single issue politics and to collaborate across nations and areas such as gender, sexuality, disability, poverty, youth and labor, for the future of these movements.

研究分野：社会学

キーワード：マイノリティの社会運動 社会政策 ジェンダーとセクシュアリティ 障害とクィア 若者と貧困 東アジア 領域横断的比較研究

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

- (1) 多くのマイノリティ運動は支配的体制から排除・抑圧されたがゆえに、既存の社会への強いアンチ・テーゼを含む革新的思想、文化を育んできた。しかし、支配的な制度が求める「よき市民」であれという規範的要求は、革新性を捨て支配的な体制へ同化することを迫る。こういった状況が新自由主義体制の中で全領域的に起きているマイノリティ運動の保守化の背景にある。
- (2) 現在東アジア圏で起きている民主化運動などと結びついた先進的なマイノリティの運動はこういった「よき市民」であれという規範と交渉しつつ政策形成運動に取り組んでいる。

## 2. 研究の目的

- (1) 既存の社会体制の変革を求めるラディカルな要素を持っていたマイノリティ運動が、政策形成運動を行う際に避けて通ることができなくなった「よき市民」規範との交渉過程をジェンダー、セクシュアリティ、障害、若者といった領域を横断して調査し、「よき市民」規範の受容が、シングルイシュー・ポリティクスとどう関係している実相を明らかにすること。
- (2) マイノリティの社会運動が、本来社会的に構築されているマイノリティの差異を本質的なものとみなすシングルイシューの政策要求運動を超えて、他のマイノリティ集団への排他性やマイノリティ集団内部において周縁化された者への排除につながることなく発展的に展開し社会変革を成し遂げていくのための手がかりを得ること。

## 3. 研究の方法

初年度と2年目は、<障害・クィア> (飯野由里子、岡部耕典、崔栄繁) <ジェンダー・セクシュアリティ> (熱田敬子、永山聡子) <若者・貧困> (阿比留久美、堅田香緒里、関水徹平)の3領域・3班体制のもとに、問いの に対応する海外を含む調査研究、文献研究を行い、リソースパーソンを招いた公開研究会にて議論を重ねる。その成果を踏まえ、最終年度では領域横断的な連続公開研究セミナーを開催しその全記録を報告集としてまとめレポジトリーに掲載することによって、3年間の研究のまとめと成果の公開・社会への還元とした。

## 4. 研究成果

体制の違いを超えて新保守主義と新自由主義が結びついた政治がグローバルに展開する現在、国家はむき出しの権力行使に替えて、支配的な制度を支える市民的義務の履行を権利付与の条件とするソフトな支配を強めている。

本研究は、「ダイバーシティ推進」の名を借りて進められているこのような動向のなかで、支配的な政治が求める「よき市民」であれという規範と交渉しつつ進められているマイノリティの社会運動に焦点をあて、それを<ジェンダー・セクシュアリティ>、<ディスアビリティ・クィア>、<若者・貧困>の3つの領域と、歴史的・文化的に重なり合いつつ対抗する日本・韓国・中国・香港という東アジアのネーションを対比・交差させつつ検討を行った。

領域別の成果は以下のとおりである。

### <障害・クィア>領域

障害領域における「よき市民」規範の強化に関連し、「活力ある社会」の実現に向けて多様な個人の「能力発揮」や「活躍」を促進する社会政策(たとえば「ユニバーサルデザイン2020行動計画」)に着目した。こうした社会政策の無批判な推進は(1)障害者-非障害者間に現に存在してきた構造的な不均衡を後景化すること、(2)社会的有用性(社会や経済の役に立つかどうか)を基準とする新たな不均衡を再生産・拡大することの2点において問題である。とりわけ後者は、新自由主義的な価値観が浸透している現代において警戒すべき点である。したがって、複数の差別構造を同時に見る交差性(Crenshaw1989)の視点を重視し、領域横断的な連携を深めていくことは、障害者-非障害者間のみならず障害者間に存在する不均衡の是正を目指す社会運動にとって最重要課題となる。

## <ジェンダー・セクシュアリティ>領域

日本を含む東アジア諸地域について、ジェンダー主流化と、ジェンダー・バックラッシュの二つの流れの中で、フェミニストやクィア・アクティビストと国家・政府の関係を横断的に調査した。新自由主義的がフェミニスト、クィア・アクティビストに浸透する中で、国家・政府に承認される「よき市民」となることがアドボカシー活動において有効だという認識を持ち、新自由主義と補完的關係にある新保守主義に接近する動きもみられた。本科研のテーマであった、「よき市民」はマイノリティを分断する規範であり、規範から外れるマイノリティを排除する原理でもある。民主化に成功した韓国と台湾の事例からは、「よき市民」の原理に抵抗するためには、植民地後の状況や、新植民地主義とジェンダーの交差性に注目することが重要だと分かった。

## <若者・貧困>領域

若者支援・貧困対策の領域における社会政策、支援活動及び当事者活動について、「自立支援」及び「よき市民」規範の観点から検討した結果、2000年代以降、さまざまな社会政策の領域に浸透した「自立支援」は、「寄り添い（伴走）型支援」を掲げて進められつつも、実態としては「当事者」を「よき市民」へと駆り立てると同時に、制度的・構造的不備を覆い隠すマジックワードとなっていることが明らかになった。

一方、複数の当事者性をもつ者たちによる「よき市民」規範に抗するような運動においても、社会の差別構造がそのまま再現されていることもわかった。マイノリティの社会運動及び政策形成において、交差性の視点が重要である。

以上のような各領域の研究成果から、新保守主義と新自由主義のもとでの「よき市民」性を強調する政治では、社会的に作りだされていたはずのマイノリティの差異を本質的なものとして表象し、より周辺化されたマイノリティの疎外と「よき市民」規範に適合する義務遂行能力を持つマイノリティを同化することによる政策形成運動の分断と弱体化が図られることが明らかになった。

このようなモメントに対抗し、マイノリティの社会運動がネーションに根差すマジョリティの政治に対して実効性のあるカウンター・パートとなるためには、独自性と革新性を保持しつつ領域別のシングルイシュー・ポリティクスを超えた包括的な政策形成のための連携を行い、広範な権利と資源獲得を目指すことが必要であり、それが真の意味でのダイバーシティ推進、すなわち多様な生の在り方が多様なままで尊重される社会を構築するための戦略として求められていることが確認できたことが本研究の現時点での到達点である。

本研究の成果をより広く共有し、今後の東アジアにおけるマイノリティの社会運動の展開に寄するために、最終年度に開催した連続公開研究セミナー「マイノリティの社会運動の現在（いま）」の講演録をまとめ、早稲田大学レポジトリに公開する。（2021年6月末予定）

本報告書は、日本・韓国・香港・中国の団体や個人のアクティビストが、民主化運動、脱植民地化、性暴力、交差性、「自立支援」施策、マイノリティの権利と差別解消を求める国際的な運動の展開などのテーマのもとにそれぞれの領域における現状と課題をめぐって行われたオンライン講演の全記録であり、東アジアにおけるマイノリティの社会運動と政治・政策との関係の現在（いま）を多面的・領域横断的に明らかにするものである。

## 残された課題

各領域における「よき市民であれ」という規範との交渉過程の実証的研究を踏まえ、シングルイシュー・ポリティクスのオルタナティブとなる領域横断的な運動の在り方を提示することが今後の課題である。

## <引用文献>

Crenshaw, Kimberle W. 1989, "Demarginalizing the Intersection of Race and Sex: A Black Feminist Critique of Antidiscrimination Doctrine, Feminist Theory and Antiracist Politics", University of Chicago Legal Forum, 1989 (1): 139-67.

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 飯野由里子	4. 巻 1151
2. 論文標題 「省略」に抗う - - 障害者の性の権利と交差性	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 52-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飯野由里子	4. 巻 47-13
2. 論文標題 [思いやり]を超えて - - 合理的配慮に関わるコンプライアンスの新たな理解	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 153-162
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飯野由里子	4. 巻 98
2. 論文標題 トランスジェンダー差別がフェミニズムの問題でもある理由	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 女たちの21世紀	6. 最初と最後の頁 37-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡部耕典	4. 巻 19
2. 論文標題 「障害者」とノのシティズンシップ 排除と周辺化のメカニズム	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 福祉社会学研究	6. 最初と最後の頁 58-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡部耕典	4. 巻 75 (2)
2. 論文標題 障害に ”根ざして” 考える? 当事者の / としての 親	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 福音と世界	6. 最初と最後の頁 6-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堅田香緒里	4. 巻 134
2. 論文標題 「開発主義」の再興 : 「人材への投資」と「福祉給付の削減」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 社会福祉研究	6. 最初と最後の頁 98-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堅田香緒里	4. 巻 74(12)
2. 論文標題 女性の貧困とネオリベラリズム	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 福音と世界	6. 最初と最後の頁 12-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堅田香緒里	4. 巻 3-1
2. 論文標題 貧者をめぐる「再分配」と「承認」の現代的諸相 : 「社会的な居場所」と「自立支援」を通して考える	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 医療福祉政策研究	6. 最初と最後の頁 21-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飯野由里子	4. 巻 1月号
2. 論文標題 共に在るためのフェミニズム??クィアとのつながりに目を向けて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 福音と世界	6. 最初と最後の頁 24-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡部耕典	4. 巻 16
2. 論文標題 『障害者』とノのシティズンシップ 排除と周辺化の構造とメカニズム	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 福祉社会学研究	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堅田香緒里	4. 巻 16
2. 論文標題 生活困窮者支援における『市民福祉』の制度化をめぐる一考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 福祉社会学研究	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 0件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 熱田敬子
2. 発表標題 インターセクショナリティの視点で見る日本帝国体制下の戦時性暴力問題(1) 個別性と普遍性の間・中国の日本軍戦時性暴力被害女性の名乗り出と対日訴訟
3. 学会等名 日本社会学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 永山聡子
2. 発表標題 東アジアの第3波フェミニズムの核心ー日本軍性暴力被害（「慰安婦」）/性奴隷問題支援運動ー
3. 学会等名 カルチュラルスタディーズ学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 梁, 永山聡子
2. 発表標題 東アジアにおける第3波フェミニズムの核心 日本軍性奴隷制解決運動を事例に
3. 学会等名 東京大学・社会の芸術フォーラム (AMSEA)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 永山聡子
2. 発表標題 インターセクショナリティの視点で見る日本帝国体制下の戦時性暴力問題(3) 歴史としての他者 の痛みから、自分たちの生/性の問題へ
3. 学会等名 日本社会学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 福永玄弥
2. 発表標題 「多様な家族」から「婚姻平等」へ：台湾における同性婚法制化をめぐるポリティクス
3. 学会等名 国際ジェンダー学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡部耕典
2. 発表標題 「障害者」とノのシティズンシップ
3. 学会等名 福祉社会学会第16回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Iino, Yuriko
2. 発表標題 "Queering" disability may be possible, but ...,
3. 学会等名 Queering Japan: Transnational Perspectives on Politics, Society and Culture (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Iino, Yuriko
2. 発表標題 The Intersection between LGBT+ and Disability Rights Movements in Japan
3. 学会等名 Conference on Disability, SOGIE and Equality in Asia
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Katada, Kaori
2. 発表標題 Case Study on the Japanese Policy Reforms on Poverty
3. 学会等名 The 15th East Asian Social Policy annual conference
4. 発表年 2018年



## 〔図書〕 計4件

1. 著者名 飯野由里子(共編著)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 262
3. 書名 クィア・スタディーズをひらく 1 - - アイデンティティ、コミュニティ、スペース	

1. 著者名 堅田香緒里(分担執筆)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 太田出版	5. 総ページ数 144
3. 書名 「民意」と政治的態度の作られ方	

1. 著者名 関水徹平、阿比留久美(分担執筆)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 かもがわ出版	5. 総ページ数 197
3. 書名 「若者/支援」を読み解くブックガイド	

1. 著者名 堅田香緒里	4. 発行年 2019年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数
3. 書名 「子どもの貧困」再考 教育を中心とする子どもの貧困対策のゆくえ」『(シリーズ・子どもの貧困3) 教える・学ぶ 教育に何ができるか』	

## 〔産業財産権〕

〔その他〕

https://jig-jig.com/serialization/fukunaga-quaiia-activism/fukunaga01/  
 http://m.ildaro.com/8604

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	熱田 敬子  (ATSUTA Keiko)  (20612071)	早稲田大学・文学学術院・講師(任期付)    (32689)	
研究分担者	飯野 由里子  (IINO Yuriko)  (10466865)	東京大学・大学院教育学研究科(教育学部)・特任助教    (12601)	
研究分担者	堅田 香緒里  (KATADA Kaori)  (40523999)	法政大学・社会学部・准教授    (32675)	
研究分担者	関水 徹平  (SEKIMIZU Teppei)  (40547634)	立正大学・社会福祉学部・准教授    (32687)	
研究分担者	阿比留 久美  (ABIRU Kumi)  (30454002)	早稲田大学・文学学術院・准教授    (32689)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	永山 聡子  (NAGAYAMA Satoko)		
研究協力者	崔 栄繁  (SAI Takanori)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関